

ふじのくに 静岡みなと通信

vol.23
春11号
2015.1.23



豪華客船「セブリティ・ミレニアム」清水港初入港

～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「春11号」発行に
寄せて(熱海市長) 1
- 港湾関係行事予定 1
- みなとニュース 2
- みなと自慢(大井川港) 7
- 港こぼれ話 9
- 静岡県港湾振興会の活動報告 11

静岡県港湾振興会



美しい輝きを放つ「セブリティ・ミレニアム」

静岡みなと通信「春11号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会監査員
熱海市長 齊藤 栄



熱海港渚地区の賑わい

周囲を海に囲まれているわが国において、港湾は海上輸送及び観光・物流の拠点として重要な役割を担っております。また、南海トラフの巨大地震などの災害が予想される中、災害時における支援物資の搬入先や帰宅困難者対策拠点など、港湾に期待される役割は大きく、災害に強い港湾の整備が求められております。

さて、当市の熱海港は、年間60万人の大島及び初島行き航路乗客や、年間23万人の海水浴客等で賑わう観光港です。こうした特徴を活かし、臨海部に新たな賑わい空間を創出するため、海岸環境整備事業により、「熱海港渚地区」、「多賀地区」の整備を実施しております。

熱海港渚地区は第3工区までが完成し、現在第4工区が施工中です。この地区は「渚親水公園」の名称で、市民や観光客に海辺の散策コースとして、また数多くのイベントが開催される会場として広く親しまれております。

多賀地区では、平成23年に長浜北工区400mが完成し、従前の海水浴場としての利用に加え、特産市などのイベントが数多く開催されており、地域の活性化や観光客の誘客に多大な貢献をしております。

私たち「静岡県港湾振興会」は、港湾整備を進めるとともに、本誌や本会の活動を通じて港湾整備の必要性をご理解いただけるよう積極的に活動してまいります。皆様方のご支援、ご協力を賜れば幸いに存じます。

港湾関係行事予定 (平成27年2月1日～平成27年7月31日)

日 程	内 容	日 程	内 容
毎月第1(日曜日)	海湖館朝市(湖西市)	5月27日(水)	(公社)日本港湾協会第88回定時総会(静岡市 清水マリナート)
2月14日(土)・2月15日(日)	網代ひものまつり(熱海市 大縄公園)	6月	オープンウォータースイミングレース大会(南伊豆町 弓ヶ浜海岸)
3月7日(土)～3月9日(月)	多賀わかめ祭り(熱海市 長浜海浜公園)	7月上旬	御前崎海水浴場開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
3月15日(日)～4月5日(日)	風の花祭り(下田市 まどが浜海遊公園)	7月17日(金)～7月20日(月・祝)	国際カジキ釣り大会(下田沖)
4月4日(土)・5月9日(土)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)	7月18日(土)～7月20日(月)	マリンフェスタ下田(下田市内)
4月26日(日)	さから草競馬大会(牧之原市 さからサンビーチ)	7月19日(日)	田子の浦ポートフェスタ(富士市 田子の浦港)
4月29日(水・祝)	第23回 大井川港朝市(焼津市 大井川港)	7月19日(日)	田子浦みなと祭り(富士市)
4月30日(木)	客船「セブリティ・ミレニアム」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月19日(日)	第15回踊夏祭、第10回大井川港トライアスロン大会(焼津市大井川港)
5月～8月(月一回土曜日)	舞阪漁港えんばい朝市(浜松市 舞阪漁港)	7月19日(日)(予定)	マリンフェスタ・アタミ2015(熱海市 渚親水公園)
5月1日(金)～5月5日(火・祝)	第40回 初島ところ天祭り(熱海市 初島港特設会場)	7月中旬	白浜海の祭典・花火大会(下田市 白浜大浜海岸)
5月4日(月・祝)・5月5日(火・祝)	伊豆山伊勢海老磯まつり(熱海市 伊豆山港浜特設会場)	7月中旬	SEA SIDE STATION '15 in SHIZUNAMI(牧之原市 静波海岸)
5月5日(火・祝)	さから風あげ大会(牧之原市 さからサンビーチ)	7月21日(火)	網代ベイフェスティバル(熱海市 網代港)
5月9日(土)	第43回 沼津水産祭(沼津市 沼津港)	7月24日(金)	堂ヶ島火祭り(西伊豆町)
5月15日(金)～5月17日(日)	黒船祭(下田市内各会場)	7月24日(金)	田子の浦港海上安全祈願祭(田子の浦港 吉原埠頭)
5月16日(土)	客船「ダイヤモンド・プリンセス」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月26日(日)	客船「こっぽん丸」入港(熱海市 熱海港ー7.5m耐震岸壁)
5月23日(土)～5月25日(月)	天草・ところてん祭り(西伊豆町)	7月26日(日)・7月30日(木)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
5月23日(土)(予定)	第7回 ぬまづ港BAR(ソリ)沼津市 沼津港周辺)	7月30日(木)・7月31日(金)	伊東温泉「夢花火」(伊東市 伊東海岸)
5月23日(土)	第5回 御前崎みなとかつお祭り(御前崎市 御前崎魚市場)	7月下旬	しずなみ海水まつり花火大会(牧之原市 静波海岸)



みなとニュース



焼津漁港 清掃船 四代目「焼津丸」の完成

全国有数の遠洋・沖合漁業の基地としてその名を知られている焼津漁港は、関東圏と中京・関西圏の中間に位置するという立地条件の良さや、港内の静穏度が高いことなどにより、平成25年の水揚げ量・水揚げ金額ともに全国2位を誇っています。

昭和40年頃までに焼津地区、小川地区の内港が完成し、入出港する漁船の増加によって、港内の水域清掃が必要になってきたことから、昭和43年度に初代「焼津丸」を導入し、港内水面のゴミ収集作業を開始しました。その後、昭和52年度に二代目「焼津丸」、平成5年度に三代目「焼津丸」を建造し、更新を重ねてきました。

しかし、この三代目も20年以上が経過して老朽化が進んだことから、今回、四代目の「焼津丸」を建造することとなりました。新しい清掃船は、平成24年度に設計を行い、平成25年度から建造を進め、今年度完成を迎えました。平成26年7月1日(火)に供用開始式を行い、現在、焼津漁港の水域清掃に活躍しています。



四代目「焼津丸」全景



ゴミ収集作業中

清水港新興津地区の新興津緑地公園(芝生広場)の供用を開始

清水港新興津国際ターミナル建設に合わせ、県が整備を進めてきた「新興津緑地公園」の芝生広場が完成し、これを記念して、平成26年7月30日(水)に式典を開催しました。この式典には、地元自治会を始め、国会議員、県議会議員、市議会議員、国土交通省、静岡市の来賓を含めた約70名が参加し、来賓の皆様から挨拶を頂きました。

この公園は、港湾整備に伴う住環境整備として平成13年度に着工しました。平成16年度末に完成した人工水路付きの流水広場、平成25年度に完成した砂地の多目的広場に続き、今回、国道1号バイパスの海側に芝生の広場を新設しました。

式典の中では、公園の清掃や美化活動に地域住民が参画する「しずおかポートサポーター制度」の調印式も併せて行われ、興津地区連合自治会の高山茂宏会長、県清水港管理局の原隆一局長、静岡市の山本克也副市長がそれぞれ同意書にサインしました。

同地区では引き続き、小型船の船だまりと人工海浜の整備を進めていきます。



供用を開始した芝生広場



式典の様子

「国際物流総合展」で“オール静岡”をPR

静岡県は、平成26年9月9日(火)から12日(金)まで東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2014」に出展しました。

国際物流総合展は、2年に1度行われる物流・ロジスティクスに関するアジア最大級の展示会で、保管機器、仕分け、ピッキング、搬送、産業車両、運搬車両、パレット・コンテナ、情報機器、保管・輸送サービス、物流機器部品、エンジニアリング・コンサルティング、港湾管理者といった各物流分野の400社以上の企業・団体が出展し、13万人を超える来場者で賑わいました。

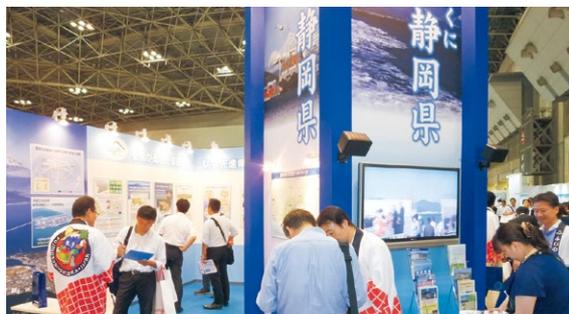
静岡県ブースでは、駿河湾港(清水港・田子の浦港・御前崎港)や、富士山静岡空港、各市町の工業団地に加えて、有事に備えた防災・減災と地域成長を両立する地域づくりを目指す取組として特区認定されている「内陸のフロンティアを拓く取組」など、各分野の様々な施策を紹介し、“オール静岡”の旗印の下、県・県内市町・民間事業者の3者が協働でPR活動を行いました。

来場者からは、「静岡県の強みや魅力をよく理解できた」「静岡県への工場立地を検討したい」という声が聞かれたほか、新たに駿河湾港を利用すべく商談が始まったケースが複数あり、首都圏の事業者に対して実りの多いセールスを展開しました。

静岡県では、今後とも貨物や企業を誘致するべく、首都圏や中京圏、阪神圏といった大都市圏へのPR活動を積極的に行っていきます。



展示会の様子



静岡県ブースの様子

「セレブリティ・ミレニアム」清水港に初入港!

平成26年9月30日(火)7時30分、清水港日の出埠頭に、約3,100名の乗客・乗員を乗せた「セレブリティ・ミレニアム」が初入港しました。平日の早朝にもかかわらず多くの県民が集まり、初入港を歓迎しました。清水港に寄港した最大の客船で、全長294m、90,963総トンの船体が着岸すると、その大きさに感嘆の声があがっていました。

寄港中は歓迎セレモニーのほか、着物の着付け体験・お茶会・芸妓による舞の披露などのさまざまなイベントや、お茶・桜えびなど地元の特産品が並ぶマルシェを開催し、多くの乗客と客船ファンで終日賑わいました。あいにくの曇り空で富士山は見えなかったため、配布した富士山ポスターが大人気でした。

今回の寄港に合わせてマリナーミナルに整備した無料Wi-Fiも大変好評で、多くの乗客がパソコンやスマートフォンを利用して市内観光や買物に出掛けていました。

出港時には地元小学生の「かっぽれエイサー」の踊りとジャズ演奏の中、多くの県民が名残惜しそうに船が小さくなるまで岸壁で見送っていました。

10月24日(金)、27日(月)にも入港し、清水港周辺は大変賑わいました。



入港を出迎える園児たち



難波副知事らによる歓迎訪船

清水港が「諏訪圏工業メッセ」初出展!

清水港ポートセールス実行委員会(県・静岡市・清水港利用促進協会で組織)は、平成26年10月16日(木)から18日(土)まで長野県諏訪市内で開催された「諏訪圏工業メッセ2014」に初出展しました。

長野県の諏訪地域は、国内有数の精密・微細加工技術の集積地として古くから発展しており、日本のものづくりを支える数多くの製造業が立地しています。諏訪地域の製造業者が一堂に会する「諏訪圏工業メッセ」は、国内最大規模の工業専門展示会で、300社・500ブースを超える出展の下、約2万5千人の来場者を迎えて盛大に行われました。

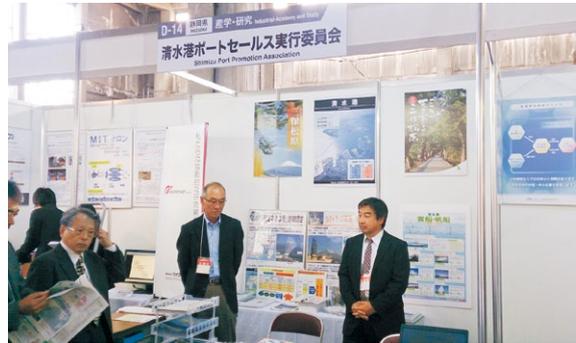
清水港は、平成29年度に中部横断自動車道の中央自動車道から新東名高速道路までの区間の開通が見込まれる中、長野県及び山梨県の貨物を誘致する絶好の機会と捉えてポートセールス活動を強化しており、今回の出展はその取組の一環です。

展示会では、中部横断自動車道の開通により、清水港が諏訪地域にとって“最も近い港”となり、その所要時間は東京港や名古屋港と比較して1時間以上短縮されることや、最新鋭の荷役設備と情報ネットワークによりコンテナ搬出入時間が他港と比べて圧倒的に短いこと等の優位性をPRし、来場者から高い関心を集めました。

清水港ポートセールス実行委員会では、今後も長野県及び山梨県で積極的なポートセールス活動を展開していきます。



展示会の様子



清水港ポートセールス実行委員会のブース

土木学会100周年記念行事 津波防災フォーラム2014を開催!

平成26年11月2日(日)に、伊豆市立土肥小学校体育館において、土木学会100周年記念行事、津波防災フォーラム2014「伊豆西海岸の津波防災対策を考える」を開催しました。

フォーラムでは、今後の伊豆西海岸における津波防災対策について、市民・行政・専門家を交え皆で考えていくことを目的に、東京大学大学院工学研究科の佐藤慎司教授の「2011東北津波を踏まえた今後の津波防災の方向」と題した基調講演に続き、静岡県から西園港湾局長が「伊豆半島の津波防災対策について」と題して、静岡県のこれまでの防災対策と、東日本大震災を踏まえた今後の防災対策について報告を行いました。

さらに、観光・宿泊業などの地元関係者と行政、学識者を交えたパネルディスカッションを行い、地域の抱える課題について話し合い、大いに防災意識の高揚を図ることができました。

当日は、当初予定していた200人を大きく上回るおよそ300人もの方々が来場し、防災対策への関心の高さがわかりました。



講演する佐藤慎司教授



パネルディスカッションの様子

客船「にっぽん丸」田子の浦港に初寄港!!

平成26年10月22日(水)田子の浦港に、客船「にっぽん丸」が入港しました。

入港時には、富士市を拠点に国内外で活躍している鬼太鼓座(おんでこぞ)の和太鼓演奏や船長への記念品贈呈といった式典が行われ、四国方面から観光で訪れた約400人の乗客を歓迎しました。

また、富士市を中心に、周辺の市町の特産品を提供するマルシェも開催され、乗客や乗員の皆さんを楽しませました。

さらに、出港時には、富士市消防楽団による演奏が行われ、あいにくの雨にも関わらず多くの市民が集まり、港は大変な盛り上がりとなりました。



鬼太鼓座(おんでこぞ)の和太鼓演奏



客船「にっぽん丸」田子の浦港入港

静岡県港湾振興会の県外港湾視察

静岡県港湾振興会では、平成26年11月17日(月)～19日(水)の3日間、会員団体等から20名が参加し、北海道の苫小牧港、小樽港、苫小牧東部地域(苫小牧港に臨設した開発地域)の視察研修を実施しました。

苫小牧港では、苫小牧港フェリーターミナル、苫小牧国際コンテナターミナルを視察しました。苫小牧国際コンテナターミナルでは、全国一の物量を有する植物検査対象品を扱っており、ほぼ毎日の様に屋外での植物検査を実施することから、全国に先駆け、雨天、降雪、強風時にも検査可能な移動式建屋が整備されていました。



小樽運河(北運河)と周辺の工場建築

小樽港では、港の概要のほか小樽市の景観行政、運河を含む臨港地区の環境整備や歴史についての説明を受けました。また、小樽港の北防波堤は、明治41年に完成した日本初の外洋型防波堤で、船上から約70度の傾斜で並んでいるブロックを見ることができました。このスローピング・ブロック・システム(重心をずらして互いに支え合う力を発生させる当時の画期的な工法)は、100年の荒波に耐え、今も現役との説明があり、土木の日(十一月十八日)に先人の偉業を目にする機会となりました。



苫小牧フェリーターミナル



小樽港北防波堤の斜塊部

㈱苫東では、開発計画、企業誘致等の説明を受けました。苫小牧東部地域は、開発総面積が10,700haにも及び日本最大級の産業用地で、スケールの大きさに驚かされました。

2日目早朝は、雪が舞っておりましたが、視察に影響するような天候にはならず無事に視察を終えることができました。各視察先では、丁寧な説明をいただき、大変有意義な研修となりました。



株式会社苫東の会議室にて概要説明

官民一体となり中国・台湾で清水港のポートセールスを実施

静岡県・静岡市・清水港利用促進協会で構成する「清水港ポートセールス実行委員会」は、平成26年11月3日(月)から7日(金)までの5日間、中国(上海・青島)、台湾(台北)でポートセールスを行いました。今回の主な活動は、コンテナ貨物船社への清水港のPRと青島港との友好提携30周年記念式典への出席であり、清水港管理局長を団長とし関係者20名が参加しました。

◆船社訪問◆

上海等に拠点を持つ船社5社と、台北に拠点を持つ船社3社を訪問し、清水港の地理的優位性や充実した交通インフラ等を紹介しました。新興津第2バース供用による利便性向上、スムーズなコンテナ搬出入が可能な交通環境とターミナルオペレーションを特にPRし、より一層の利用を呼び掛けました。船社からは、清水港は荷主のニーズがある港であり、中部横断自動車道の開通による背後圏の拡大に期待を寄せる声が聞かれました。



船社訪問するミッション団

◆青島港友好提携30周年記念式典◆

清水港と青島港は、昭和59年4月に友好港湾提携に調印し、今年は30周年の節目の年となりました。静岡市議会港湾議員連盟の10名とともに記念式典へ出席し、青島港関係者の熱烈的な歓迎を受けました。

青島港を代表して挨拶した青島港集団王副総裁は、「清水港とは、理解と交流を深め友情を育み相互に発展してきた。この友好関係を誇りに思うとともにまた未永く続くことを信じ、今後の相互の発展に力を尽くしたい。」と清水港との良好な友好関係の継続を強調していました。



青島港友好提携30周年記念式典

◆青島港視察◆

青島港は、青島旧港区、前湾港区等の、4大港区で構成され、各港区で機能を分担し高効率、高質な運営管理を図り2013年には4.5億トン(世界第7位)の貨物を取扱っています。コンテナ取扱機能は、18,000TEUクラスのコンテナ船に対応する水深-17mバースをはじめ、計20バースに79基のガントリークレーンと広大なターミナルを有し、2013年のコンテナ取扱量は1,552万TEUであり世界第7位にランクされています。

現在、清水港と青島港とは、平成26年10月からの新規航路を加え2航路で結ばれており、両港間の貨物が増加し両港が益々発展することが期待されています。



青島港(前湾港区)コンテナターミナル

みなと“白慢”

焼津市
大井川港管理事務所

～地域とともに歩んだ50年～

祝 大井川港開港50周年



やいちゃん

1.大井川港の沿革

大井川港は駿河湾に注ぐ大井川の河口部左岸を掘り込んで建設された掘り込み港湾です。昭和37年に港湾法に基づく地方港湾として指定を受け建設に着手し、昭和39年に骨材岸壁と最小限の防波堤、航路、泊地の整備を行い、砂利資源の搬出基地として供用を開始しました。その後、数次にわたり整備を行い、公共石油バースや石油専用バース、鉄鋼専用バース、一般雑貨を対象とした公共バースの完成により、エネルギー需要に対応するための石油類の供給など、物流の拠点としての役割を果たしながら、地域経済の発展に大きく寄与する港に成長しました。

平成25年の大井川港の港勢は、入港船舶隻数1,666隻、取扱貨物量は、輸移出貨物が5万t、輸移入貨物が187万t、合計192万tで県内第4位となっています。その主要品種は、石油製品や重油、LPG等の石油類の他、セメント、製材、鋼材等の建設資材です。

本港の位置する静岡県中部は、大井川の豊富な伏流水と広大な平野等の条件に恵まれ、国道1号、同150号、東名高速道路などの交通網により首都経済圏・中京経済圏へのアクセスに有利な地域にあります。

また、国道150号バイパスや志太中央幹線、東名高速道路スマートインターチェンジ(平成28年3月供用開始予定)の整備、富士山静岡空港など、陸海空一体となった輸送により一層の効率化が見込まれ、今後の経済の発展に期待がかかる地域です。

2.みなとを舞台とした地域振興

大井川港は地域住民の憩い・レクリエーションの場としても親しまれ、みなとを利用したイベントが年間を通して開催されています。



昭和35年 開発計画中の大井川港



現在の大井川港

なかでも平成13年から行われている「踊夏(おどらっか)祭」は、海の日の前日の日曜日に公共北荷捌地を会場に開催され、毎年多くの来場者で賑わっています。同時開催されているトライアスロン大会も好評で、今年は286名の参加者があり大いに盛り上がりました。

毎年4月29日(祝)に開催される「大井川港朝市」では、大井川港で水揚げされる新鮮なシラス、サクラエビなどの特産品の販売や、フリーマーケットなどが行われ、多くの来場者で賑わっています。

また、今年は6月から10月までの毎月第2日曜日に、大井川港漁協魚市場において、シラス・サクラエビを使った丼市が開催され、毎回人気を集めました

このほか、「駿河湾船釣り大会」(7月)、「大井川港釣り大会」(9月)などが行われ、地域振興や交流活動の拠点としての役割を担っています。



第14回 踊夏祭



第9回大井川港トライアスロン大会



第22回大井川港朝市

3.これからの大井川港

大井川港は、関係各位の御指導と御支援に支えられて今年で開港50周年を迎え、11月7日(金)には多数の御来賓や関係者の皆様の御臨席を賜り、記念式典を開催することができました。

また、50年を一つの契機として、「みなとオアシス」制度に申請し、記念式典当日に県内では沼津港に次いで2港目となる「みなとオアシスおおいがわ」が認定・登録されました。この制度を活用して、賑わいと交流を創出する場として発展させていきたいと考えています。

さらには、喫緊の課題である防災・減災対策の推進、施設の適切な維持管理など、時代のニーズを的確に捉えた物流、観光・交流、安心・安全等の機能の充実を図り、地域に貢献するみなと、地域に密着したみなととして、次の50年に向かって着実に歩んでまいります。



みなとオアシス認定証授与式



津波避難タワー

～港こぼれ話～

清水港の客船誘致活動

元静岡県交通基盤部清水港管理局長
村松 俊男



清水港はどんな港かと問われれば、10人に聞けば10人が物流港湾であると答えるでしょう。国内に18ある国際拠点港湾の中で最小規模の港でありながら、コンテナ取扱個数は北九州港を抜いて第7位、取扱個数は平成25年資料で約50万TEUです。

また海上出入貨物で見れば外貿・内貿合わせて約16百万トン、その取扱い品種ではオートバイ、プラモデル、楽器、缶詰の輸出、サッカーボール、マグロ、紅茶の輸入が日本一を誇り、パルプや穀物、LNG、機械部品など、ありとあらゆる品目を取り扱うマルチ港湾といえます。

そんな中でちょっと違った取り組みをしている人たちがいます。それは客船誘致活動です。静岡市清水区（旧清水市）は昔から港町として栄えてきた土地柄ゆえに海や船に対する関心が高く、外国客船や日本のクルーズ船が寄港すると大勢の見物人が押し寄せます。

平成2年、クイーンエリザベスⅡ世号（70,327トン293.5m）が初入港した際、岸壁上で大変な賑わ



クイーンエリザベスⅡ世号初入港（平成2年2月23日）
（写真提供：清水港管理局）

いを見せたのを契機に、客船等を誘致することで県民・市民に開かれた賑わいのある港づくりを行う機運が高まり、静岡県・静岡市・商工会議所・静岡観光コンベンション協会などで清水港客船誘致委員会が設立されました。清水港の場合、貨物船には海外

船社も含めてかなりの知名度がありますが、客船の世界ではほとんど知られていません。そこで客船誘致委員会では、実際の客船寄港時のもてなしとともに、誘致活動全般を官民が団結して行っています。

寄港時のもてなしも誘致関係者が知恵を絞り清水港ならではの特色を持ったものとしています。もちろん、船長などに花束を贈るといった重要な歓迎行事は実施します。しかし、儀式的な歓迎行事も大切ですが、清水港では港や周辺の魅力を紹介するもてなしを意図して行っています。代表的なものが、冷凍マグロの本場ならではの「マグロの解体ショー」です。



マグロの解体ショー（写真提供：清水港管理局）

板前さんの迫力ある包丁さばきと刺身の振る舞いには、舌鼓を打つとともに乗船客のだれもが拍手をしています。そのほかにも清水の検番総力を挙げての芸者衆による踊りの披露です。料亭のお座敷さながら、お太鼓に三味線、歌に合わせた芸者衆による日本舞踊です。さらに市内の小学生による演舞や縄跳びパフォーマンスなどを織り交ぜています。子供たちのパフォーマンスにたいしては、乗船客が子供たちの周りを輪になり、また船上のデッキから身を投げ出して拍手喝采です。この他お茶会の開催、富士山写真展、書道教室、振り袖など和服の着付けなど日本文化の紹介などもあり、多くの乗船客が写真を撮

り楽しんでおります。

清水港の知名度を上げ、県民・市民の高い関心を得ている外国豪華客船を清水港へ誘致するため、平成17年度より2年ごとに清水港およびその他日本の港に数多く寄港実績を持つアメリカのクルーズ船社を訪問しています。

平成22年度には4月11日から4月17日までの1週間、小嶋静岡市長、望月会長、村松静岡市役所職員、私の4人でロサンゼルスとマイアミにあるクルーズ会社へのポートセールスを行いました。4月11日に成



ポートセールス活動(左から2人目が筆者)

田を出発し、約10時間のフライトでロサンゼルスにつき、翌日クリスタルクルーズ社とプリンセスクルーズ社を訪問しました。クリスタルクルーズ社では前年「クリスタルセレンティー」の清水港への寄港もあり、その時の歓迎ぶりを絶賛し再度の寄港を考えているとの朗報でした。4月13日にマイアミへ飛び、翌日プレステージクルーズ社、シルバーシークルーズ社、ロイヤルカリビアン・インターナショナル社を訪問しました。どこの社でも清水港の知名度はほとんどないため「清水港は日本で1番高い富士山のすぐ南に位置しており富士山の絶景を楽しむには最適な港ですよ」(さすがは富士山です。どこのクルーズ社も世界文化遺産になる前でも富士山は知っていました)との説明で理解をしてもらいました。特にロイヤルカリビアン・インターナショナル社では、今後アジア配船を強化する考えであり、清水港への寄港も考慮したいとのありがたい返事もいただきました。4月15日マイアミからロサンゼルスに戻り、4月16日ロサンゼルス空港をあとにして、空路12時間成田へ戻りました。私事で恐縮ですが、15日に父が急性心不全で急逝し電話連絡はあったのですが、マイアミからの直行便はなく、3日ほど葬式が遅れることとなりま

したが、今考えるに家族としては父との別れを惜しむ時間がたくさんできたという風に思っています。

それから、清水港客船誘致委員会のもう一つの大きな誘致活動に練習帆船の寄港歓迎があります。平成21年には「日本丸」と「海王丸」が同時入港し、



海王丸の入港(平成21年10月18日)
(写真提供:清水港管理局)

歩けないほどのお客が集まり、カメラの行列となりました。帆船の最大の見どころは、セイルドリルです。岸壁に接岸したまま帆を広げる訓練ですが、約1時間を要してすべての帆を人力で張るのです。最初はマストにも登れなかった実習生が2か月間あまりの訓練で鍛錬され、人海戦術で帆布を張るまでに成長するのだそうです。その帆を張った美しい姿から、日本丸が「太平洋の白鳥」、海王丸が「海の貴婦人」とも呼ばれています。記憶があいまいですが、この年は確か地元旧清水市内にある学校の生徒さんが研修生として乗っていたように思います。帆船の出航時には、港や歓送者に対して感謝の意を表し、白い実習服に身を包みマストやヤードに登り脱帽の上「ごきげんよう」を三声する登檣礼とうしょうらいが行われ、練習生の親御さんなのか涙ぐむ方が数多くいました。客船は港にとって文化であり華でもあります。

富士山が世界文化遺産となった今こそ客船誘致のチャンス到来です。

今後とも清水港は華(客船)も実(貨物)もある港湾として発展されんことを願ってやみません。最後になりますが、雑文を読んでいただきありがとうございました。

静岡県港湾振興会の活動報告

静岡県港湾整備促進大会を開催

平成26年7月24日(木)、ホテルセンチュリー静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

田辺港湾振興会会長(静岡市長)のごあいさつの後、難波静岡県副知事や伊藤県議会副議長をはじめ来賓の方々からごあいさつをいただきました。

御出席をいただいた市町長から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また同大会に先立ち、静岡県 難波喬司副知事を講師にお迎えし、「しずおかの港の未来を考える視点」と題して、御講演をいただきました。

平成26年度静岡県港湾整備促進大会



田辺会長(静岡市長)あいさつ

平成26年度静岡県港湾整備促進大会



西原副会長(牧之原市長)による決議の読み上げ



講演会の様子

経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

平成26年10月23日(木)、東京の砂防会館において、日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは田辺静岡市長、石原御前崎市長、をはじめ23名が出席しました。

大会では、多数の国会議員に来賓として御出席いただく中、港湾所在市町村首長が港湾整備振興に関する意見表明を行い、港湾整備の推進に向けた決議がされました。

大会に先立ち、ホテルニューオータニで東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、石原御前崎市長が意見表明し、本県港湾整備への支援を訴えました。

大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。



経済と暮らしを支える港づくり全国大会の様子

編集後記 |

謹んで新春をお祝い申し上げます。
平成26年11月17日(月)～19日(水)に行われた県外港湾視察(苫小牧港・小樽港・苫東地域)に同行させていただきました。寒さや雪が心配されましたが、悪天候にはならず、無事に視察を終えることができました。御多忙中にも関わらず御出席をいただいた方々には、この場をお借りしてお礼申し上げます。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。